



## 令和6年度 八王子市立川口中学校 学校経営報告書

令和7年3月8日  
八王子市立川口中学校  
校長 寺沢 亮

### 1 はじめに

- ・ 一人一人の生徒が、安心して、安全に学校生活を送ることができるよう、教職員が一丸となり生徒の生命を守り、人権を尊重し、教育環境の整備・充実を図る学校運営を行う。
- ・ 一人一人の生徒が、未来は自分で創り出せると信じることができるよう、充実感や成就感、自己肯定感や自尊感情を育むことのできる学校運営を行う。
- ・ 一人一人の生徒が、将来において、豊かな人生を送ることができるよう、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学ぶ態度、さらに生涯を通じて学び続ける態度を身に付けさせる学校運営を行う。
- ・ 教育公務員としての熱意と使命感をもち、生徒、保護者、地域からの願いを受け止め、教育内容の工夫・改善に努め、誇れる川口中学校を実現する。

### 2 学校の教育目標

#### (1) 教育目標 目指す生徒像

- 「進んで学ぶ人」 ～ 学ぶ ～  
「心身を鍛える人」 ～ 鍛える ～  
「責任を重んじ、豊かな心の人」 ～ 豊かな心 ～ 《重点》

#### (2) 目指す学校像

日々の教育活動を通して、「深く考える」、「分かる」、「できる」を実感させることで、生涯を通じて学び続け、国際社会に貢献しようとする人間を育てる。

- ① 一人一人の生徒が、安心して、安全に学校生活を送ることができる学校
- ② これからの社会における、どのような状況においても、柔軟に、強かに、たくましく生きていくための「確かな学力」を、一人一人の生徒に身に付けさせる学校
- ③ 一人一人の生徒が大切にされ、自分の良さが伸ばされ、生かされる学校
- ④ 家庭、地域と共に学び、高め合い、認め合う、相互に信頼関係のある温かい学校

#### (3) 目指す教職員像

- ① 人権尊重の理念を理解し、生徒の成長のために、深い愛情を注ぐ教職員
- ② 教育公務員としての熱意、使命感及び高い専門性をもつ教職員
- ③ 時代の変化を的確に捉え、真摯に研究・修養に励み、教育の充実、授業改善に活かす教職員
- ④ 学校組織の一員としての自覚と協働意識をもち、職務遂行する教職員

### 3 中期的経営目標と方策

#### (1) 主体的に学ぶ意欲を身に付け、社会人としての基礎を築く学校

- ① 「深く考える授業」、「分かる授業」、「魅力ある授業」を実現し、主体的に学ぶ態度を身に付ける授業を推進することで、将来に大きな夢を抱き、自分の人生を創造するために努力し続ける生徒を育成する。
- ② 友達と喜び、悲しみ、苦しみを共有することで支え合い、自他を尊重し、思いやりのある豊かな心を身に付ける教育活動を推進する。
- ③ 真面目さや正義を大切にすると共に、正しい判断ができる生徒を育成する。

#### (2) 地域社会と協働し、共に成長する学校

- ① 学校運営協議会を設置した地域運営学校（コミュニティかわぐち）としての教育活動の推進
- ② 地域社会の拠点として、義務教育9年間を見通した、継続性を踏まえた教育活動の推進
- ③ 学校関係者評価に基づいた、迅速で計画性のある改善実施による教育活動の推進

### 4 今年度の重点目標と方策

将来の予測が困難であり、変化の激しい時代であることを視野に入れ、「確かな学力」「人間力」を身に付けた「自分の人生を創造するために、努力し続けることができる生徒」の育成を目指す。

#### (1) 豊かな心の育成（重点） <人権感覚と規範意識の確立、自己有用感の醸成> 目標達成率 85%

- ① 全教育活動を通して人権教育を推進し、生徒の人権感覚を高め、自他を尊重し、思いやりのある態度で接し、いじめのない、安全で安心な学校をつくる。
- ② 心の教育を充実させ、生徒の正義感、真面目に取り組む態度を大切にする。
- ③ 明るく爽やかな挨拶を交わし合うことのできる学校環境を築く。
- ④ 「認め、励まし、褒め、支える」生徒理解に基づく指導を行うことにより、自尊感情や自己肯定感を高めると共に、相互の信頼関係を構築する。
- ⑤ 道徳教育推進教師を中心に「特別の教科 道徳」の授業を組織的・計画的に推進し、考え議論する道徳の授業を展開する。全教育活動で行う道徳教育を補充・深化・統合する位置付けとする。
- ⑥ 全教育活動で「ユニバーサルデザイン」を意識した特別支援教育を推進すると共に、通常学級と特別支援学級との交流及び共同学習の充実を図る。
- ⑦ 学校いじめ対策委員会、八王子タイム（いじめ対応の時間）を組織的に運営し、差別やいじめを見逃さず、事実を正確に捉え、共通理解・協働実践、早期発見・早期対応を徹底する。
- ⑧ 川口中学校「不登校生徒支援方針」を絶えず更新し取組に活かすことで、不登校生徒一人一人に応じた居場所作り及び支援を組織的に進める。
- ⑨ 生活指導の目的を生徒の自己指導力の育成におき、共感的人間関係を確立し、生徒の自己肯定感を高める指導を展開する。
- ⑩ 国際理解教育を推進し、多様な見方や考え方、価値観に触れさせ、共生社会実現への基礎を築く。
- ⑪ 環境は人を育てる。清掃活動、机やロッカーの整理・整頓、掲示物等、校内環境の整備に努める。

生徒 「あてはまる」「だいたいあてはまる」回答率 (%)		平均 (%)
1. いじめを許さない学校づくりへの取組	67.2	82.5
2. 生活指導への適切な取組	77.6	
3. 自他の大切さを認め、行動できる力を育む教育	74.9	
4. 自分には良いところがある ◎	86.3	
5. 先生はあなたの良いところを認めてくれる ◎	90.2	
6. 困っている人を進んで助けている ◎	84.3	
7. いじめはどんな理由があってもいけないと思う ◎	89.2	
8. 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う ◎	75.5	
9. 自分の成長や進路・将来などについて、相談できる人がいる ○	89.5	
10. 学校生活において楽しみなことがある ○	90.0	

保護者・地域 「あてはまる」「だいたいあてはまる」回答率 (%)		平均 (%)
1. (保) いじめを許さない学校づくりへの取組	70.7	78.6
(地) いじめを許さない学校づくりへの取組	81.8	
2. (保) 生活指導への適切な取組	68.4	
(地) 生活指導への適切な取組	72.7	
3. (保) 自他の大切さを認め、行動できる力を育む教育	75.0	
(地) 自他の大切さを認め、行動できる力を育む教育	90.9	
4. (保) 授業や学校行事に意欲的に取り組める指導	78.1	
(地) 授業や学校行事に意欲的に取り組める指導	90.9	

教職員自己評価 「あてはまる」「だいたいあてはまる」回答率 (%)		平均 (%)
1. 人権教育を推進し、いじめのない心の居場所のある学校	89.5	75.8
2. 明るく爽やかな挨拶を交わし合える学校環境	63.2	
3. 正義感や真面目に取り組む態度を大切にする心の教育の充実	89.5	
4. 「認め・励まし・褒め・支える」生徒理解に基づく指導	100.0	
5. 考え議論する道徳の授業展開	63.2	
6. 特別支援教育の推進（合理的配慮の充実等）	73.7	
7. 国際理解教育の推進	36.8	
8. いじめや差別への早期発見・早期対応の徹底	100.0	
9. 不登校生徒一人一人に応じた環境づくり 組織的支援	78.9	
10. 校内環境の整備	63.2	

豊かな心の育成

総括達成率 79.0 %

### 【自己評価】

豊かな心の育成に向けて、総括 79.0%であり、目標達成率には届かなかった。特に生徒・保護者「いじめを許さない学校づくりへの取組」「生活指導への適切な取組」、及び教職員「考え議論する道徳の授業展開」の肯定的回答の割合が低いため、本校の課題として次年度以降も重点として取り組み、「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」（今年度肯定的回答 89.2%）については 100%の肯定的回答を目指す。一方、「学校生活において楽しみなことがある」肯定的回答 90.0%、「先生はあなたの良いところを認めてくれる」肯定的回答 90.2%の結果であり、教職員の生徒理解に基づく指導の成果が徐々に表れてきていると考えられる。「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」肯定的回答 75.5%の結果であった。より多くの人の考えに触れさせ、多様な考え方があることを知り、その中からより自分を成長させるものを導き出す経験を積ませる必要がある。「国際理解教育の推進」については、大学と連携した留学生との交流を実施したが、特定の学年での取組となったので、肯定的回答の割合が低かったと考えられる。引き続き組織的に工夫・改善を図っていく必要がある。

### 【学校関係者評価】

「いじめを許さない学校づくりへの取組」は保護者、生徒ともに肯定的回答が約 7 割であり、教職員との共通の理解とはなっていないようである。教職員の回答のうち、「明るく爽やかな挨拶を交わし合える学校環境」「考え議論する道徳の授業展開」の項目の肯定的回答が比較的低い数字になっているので、この 2 つの項目が上昇すれば、学校づくりに対する保護者の理解も進むのではないだろうか。また、生徒の回答で、概ね自己肯定感が高いという数字が表れていることについては評価できる。特に「先生はあなたの良いところを認めてくれる」の肯定的回答が高く、教職員のきめ細やかな指導や支援の表れではないかと考える。教職員「校内環境の整備」の肯定的回答が低いことが気になる。環境は人を育てる、という学校経営計画の言葉にあるように、学習環境の整備に努め、生徒の豊かな心の育成に努めてもらいたい。

## (2) 学力の向上 <基礎的・基本的な知識及び技能習得と学習意欲の向上> 目標達成率 80%

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を柱とした研究を充実させ、魅力ある授業を展開する。
- ② 授業の中で、「本時のねらい」「本時の流れ」を明示すると共に、深く考えるための主発問の提示及び生徒の主体的・対話的な活動を必ず 1 回設定する。さらに課題解決の場面において、「授業の振り返り・まとめ」の時間を設定し、生徒自ら学習への課題意識をもち、学びに向かう力を育む。
- ③ チャイムによる始業・終業を徹底し、けじめを付けさせ、集中力を向上させ、学習規律を高め、落ち着いて学習に取り組める環境を整える。
- ④ 学力調査（全国・都・市）及び定期考査等の結果分析により、生徒一人一人の学習到達状況を把握すると共に、学力定着プロジェクトチームを中心に改善策を講じる。
- ⑤ 論理的に思考し、自らの考えを深め、それを発信することを通して、知識の定着を図る。そのために、話し合い、プレゼンテーション、ポスターセッション等を取り入れた授業や伝え合う場の設定を充実する。
- ⑥ 教科担当者による面談等、学び方に関するガイダンスを充実すると共に、ドリル型学習コンテンツを活用し、意図的、計画的な学習課題を提示することで、家庭における学習習慣の定着を図る。

- ⑦ GIGA スクール構想に基づき、学習用端末や ICT 機器を効果的に活用することにより、個別最適な学びの実現を図り、生徒の学ぶ意欲を高めると共に、学力向上を図る。
- ⑧ 放課後及び長期休業日等において、計画的に補充学習を実施し、学力の定着を図る。
- ⑨ PDCA サイクルに沿った、指導と評価の一体化を単元のまとまりごとに行うことで、教員の指導力の向上及び生徒の学力向上を図る。
- ⑩ 学校図書館を効果的に活用した授業を推進し、『整理→考察→発信』する学びの流れを構築する。

◎全国学力・学習状況調査 ○八王子市版生活及び学習に関するアンケート

生徒・保護者 「あてはまる」「だいたいあてはまる」回答率 (%)		平均 (%)
1 先生は、授業のはじめに学習のねらいや目的をはっきりと示している	88.4	84.6
2. 先生の教え方は、わかりやすい	84.9	
3. 先生のパソコンやプロジェクター等の ICT 機器を用いた授業はわかりやすい	71.0	
4. 先生の授業の進め方はちょうどいい	87.2	
5. 先生は、授業を時間通りに始め、時間通りに終わっている	91.1	
6. 先生は、学習への取組をきちんと評価している	90.8	
7. 「わかる授業、できる授業、考える授業」を基本として、授業が進められている	88.2	
8. 授業は自分に合った教え方、教材、学習時間になっている ◎	88.2	
9. 先生は、理解していないところについて、分かるまでおしえてくれている ◎	84.3	
10. (保) 工夫した授業が展開されている	90.0	
11. (保) 学習に対する評価は適切・公平である	75.9	
12. (保) 学校は、放課後学習教室やテスト前補習などによく対応している	74.8	

生徒自己評価 「あてはまる」「だいたいあてはまる」回答率 (%)		平均 (%)
1. 学習の課題を解決できるよう自分なりに工夫している ◎◎	75.6	77.4
2. 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる ◎	82.3	
3. 各教科などで学んだことを生かし、自分の考えをまとめる活動を行っている ◎	77.5	
4. 家庭で、学校や塾、習い事などの課題・宿題に取り組んでいる ○	69.5	
5. 自分で計画を立て、時間を決めるなどして、課題・宿題に取り組んだり、テストの準備をしたりしている ○	65.6	
6. 話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができている ◎	79.4	
7. 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている ◎	81.4	
8. 学習で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができている ◎	78.4	
9. 友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる ◎	87.3	

教職員自己評価 「あてはまる」「だいたいあてはまる」回答率 (%)		平均 (%)
1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業展開	84.2	69.6
2. 「授業のねらい」の提示と「授業の振り返り・まとめ」の設定	100.0	
3. 学習規律の向上と落ち着いて学習に取り組める環境	84.2	
4. 論理的に思考し、表現できる力を身に付けさせる授業の展開	73.7	
5. 学び方に関するガイダンスの充実と学習習慣の確立	63.2	
6. GIGA スクール構想の確立、個別最適な学びの実現	52.6	
7. 計画的な補充学習の実施	42.1	
8. 指導と評価の一体化による指導力及び生徒の学力の向上	78.9	
9. 学校図書館を効果的に活用した授業の推進	47.4	

学力の向上	<u>総括達成率 77.2 %</u>
-------	---------------------

### 【自己評価】

学力の向上に向けて、全体的な傾向として総括 77.2%であり、目標達成率にはわずかだが届かなかった。ただ、生徒・保護者の肯定的回答が 84.6%であり、概ね良好な結果であった。生徒「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」肯定的回答が 8 割を超えていることから、生徒の学習に対する意識の向上が見られる。また、生徒「先生は、学習への取り組みをきちんと評価している」肯定的回答は 90.8%であった。今年度の校内研究のテーマを「指導と評価の一体化」に向けた、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善」とし、外部講師を招聘した講義や研究授業を組織的に実施してきた成果が表れてきていると考えられる。一方、学力の定着状況としては課題が見られる。全国学力・学習状況調査及び八王子市学力定着度調査において、国・都・市の平均値を実施全教科において下回っている。あくまでも、平均値の全体傾向であるが、生徒一人一人の課題を質的に丁寧に確認・分析し、基礎・基本の学力を身に付ける組織的な取組が重要であると同時に、川口中学校ブロックの各小学校との学力向上を目指す協働的な取組が必要である。具体的には、生徒の自己評価「家庭で、学校や塾、習い事などの課題・宿題に取り組んでいる」「自分で計画を立て、時間を決めるなどして、課題・宿題に取り組んだり、テストの準備をしたりしている」の肯定的回答が低いことから、家庭学習やテスト勉強に計画的に取り組む習慣について課題があり、その改善に努める必要があることである。そのため、教職員「学び方に関するガイダンスの充実と学習習慣の確立」「計画的な補充学習の実施」の項目において、次年度は改善が図られるように、小中一貫の視点で研究を進める。

### 【学校関係者評価】

教育に対する教職員の認識が生徒・保護者に認識されつつあり、肯定的回答も 8 割を超えているのは評価できる。しかし、「学習に対する適切な評価」については、生徒の肯定的回答が 90.8%であるのに対し、保護者は 75.9%と認識の違いがある。生徒・保護者の共通の認識となるように、学校側からの丁寧な説明が必要であると思われる。また、生徒自身の学習に取り組む姿勢に課題が残っている。ただ、肯定的回答が低いということは、課題があることを生徒自身が自覚しているということであり、大いに改善の余地があるはずである。学習方法のガイダンスや補充学習の組織的な P D C A に沿った運営により、生徒が困っているこ

と、分からないことを気軽に相談できる環境を整えることなども必要ではないだろうか。さらに言えば、教職員の側からの積極的な助言等が必要な場合もあるのではないかと考えられる。ぜひ、学習において困難を抱えている生徒の学力のボトムアップを図り、誰一人取り残さない教育活動の展開を期待したい。

図書館の活用については、時代の変化に合わせることや、生徒が本に親しむ機会を意図的・計画的に作ることなどを基本として、新たな工夫を検討する必要があると思われる。

### (3) 地域社会との連携及び協働

目標達成率 85%

- ① 地域運営学校（コミュニティかわぐち）として、目指す生徒像・学校像を、地域社会と家庭と学校とが共通理解のもと、より良い教育活動のために協働できる体制を整える。
- ② 教育活動のねらいや方向性、成果等について、学校だよりや学年だより、学校ホームページなどを活用して適切に発信し、地域社会・家庭との共通理解に努める。
- ③ 地域社会と連携し、多様な教育力の活用を図り、職場体験学習や職業講話などのキャリア教育を推進し、生徒の社会的自立・職業的自立に向けての必要な意欲や態度及び能力の育成を図る。
- ④ SDGs の理念に関する持続可能な社会の実現に向けた資質を養うために、地域社会と協働した環境学習・郷土学習を系統的に実施する。
- ⑤ 災害時に、地域で暮らす中学生として自助・共助の精神のもと、正しい判断・冷静な行動がとれるよう、地域社会と協働した防災教育の充実を図る。
- ⑥ 各教科等における保健指導、食育指導、安全指導等を地域社会・家庭と連携して充実させる。
- ⑦ 教育活動の改善を図るために、地域・保護者・生徒アンケート、生徒による授業アンケート結果をもとに自己評価を行い、学校運営協議会委員による学校関係者評価を実施する。
- ⑧ 地域におけるボランティア活動や各種行事に積極的に参加し、勤労・奉仕の心を育てる。
- ⑨ 川口中学校グループにおける合同研究及び実践を進め、義務教育9年間を切れ目なくつなぐ系統的・継続的な教育活動を推進する。

◎全国学力・学習状況調査

○八王子市版生活及び学習に関するアンケート

生徒 「あてはまる」「だいたいあてはまる」回答率 (%)		平均 (%)
1. 人の役に立つ人間になりたい ◎	91.2	74.9
2. 地域や社会をよくするために何かをしてみたい ◎	72.6	
3. 小学校と合同で小中一貫教育の取組を行っている	58.7	
4. 将来の夢や希望をもっている ◎○	77.1	

保護者・地域 「あてはまる」「だいたいあてはまる」回答率 (%)		平均 (%)
1. (保) 地域運営学校としての学校運営協議会を中心とする学校づくり	71.3	84.6
(地) 地域運営学校としての学校運営協議会を中心とする学校づくり	81.8	
2. (保) 学校だよりや学校ホームページ等による適切な情報提供	87.0	
(地) 学校だよりや学校ホームページ等による適切な情報提供	90.9	
3. (保) 将来の進路や生き方についてのキャリア教育の推進	85.9	
(地) 将来の進路や生き方についてのキャリア教育の推進	90.9	

教職員自己評価 「あてはまる」「だいたいあてはまる」回答率 (%)		平均 (%)
1. 地域運営学校としての地域と協働した教育活動の推進	78.9	80.5
2. 適切な情報発信、地域社会・家庭との共通理解	94.7	
3. 地域社会と連携したキャリア教育の推進	78.9	
4. SDGs を意識した環境学習・郷土学習の推進	89.5	
5. 地域と連携した保健指導、食育指導、安全指導等の充実	78.9	
6. ボランティア活動への参加による勤労・奉仕の心の育成	78.9	
7. 学校運営協議会による学校関係者評価の実施	78.9	
8. 義務教育9年間を見通した教育活動の推進	65.2	

地域社会との連携及び協働	<u>総括達成率 80.0 %</u>
--------------	---------------------

#### 【自己評価】

地域社会との連携及び協働に向けて、全体的な傾向として総括 80.0%であり、目標達成率には届かなかったが、生徒「人の役に立つ人間になりたい」肯定的回答 91.2%、「地域や社会をよくするために何かをしてみたい」肯定的回答 72.6%（昨年比+9.5%）の結果は、学校運営協議会や青少対などと連携しながら取り組む活動の経験や、総合的な学習の時間での SDGs や環境学習の取組の成果が表れたものと思われる。また、青少対主催の地域清掃活動には、土曜日にかかわらず 91 名の生徒が参加した。地域の方々と関わりながら自らの役割を果たすことは、生徒の自己肯定感や自己有用感を高める貴重な経験となった。

小中一貫教育、学校運営協議会関連についての肯定的回答が生徒・教職員ともに低い数字となっているので、学校運営協議会とのさらなる連携、川口中学校グループの小学校と一体となった教育活動の充実に向けて継続的に取り組む必要がある。

#### 【学校関係者評価】

学校からの適切な情報提供において、肯定的回答が高い割合であることから、学校と地域との連携はよく取れていることがわかる。学校運営協議会もその一翼を担っていると自負しているところである。しかし、生徒の肯定的回答の平均が 74.9%であることから、地域のために具体的に何をすればよいのか戸惑っているのではないだろうか。コロナ禍後の地域の行事が復活されつつあるが、一度途切れた生徒の活躍する場がまだ十分に認知されていないのではないかと考えられる。それでも、地域の祭での吹奏楽部や和太鼓部の活躍や青少対清掃活動での川口中生徒の働きを見れば、地域での中学生の力は必要不可欠のものである。地域としては、生徒が参加しやすく、生き生きと活動できる環境を整えることが必要であろう。

「地域運営学校としての学校運営協議会を中心とする学校づくり」において、保護者、教職員の認知度が低いことについては学校運営協議会としても責任を感じている。来年度は教職員との協議会、各種検定や定期考査前の学習サポート等、生徒の成長のために、さらに学校と一体となった取組を図りたいと考える。

## 5 質の高い教職員組織の実現

### (1) 資質向上のために

- ① 校内 OJT を組織的・計画的に実施する。
- ② 授業力向上を図るために、学習指導案に基づく研究授業（年に 1 回以上）、共同研究を実施する。
- ③ 学校経営計画に基づき、学年経営計画、学級経営計画を作成し運営する。
- ④ 保護者・地域社会・外部機関との連携を適切に行う。
- ⑤ 教育に関して強い使命感と高い識見をもち、指導技術に長けたプロ意識を備える。
- ⑥ 自分に関わる範囲だけではなく、学校全体を良くしていこうとする意識をもち行動する。
- ⑦ 研究・修養に励み、自己啓発を図ると共に、自己の心身の健康管理に努める。

### (2) 組織的な学校運営のために

- ① 報告・連絡・相談を徹底し、全職員で共通理解のもと動く。
- ② 経営会議、運営委員会を充実させ機能させる。
- ③ 起案システムの徹底を図る。
- ④ 整理・整頓・清掃、物品管理を徹底する。
- ⑤ コスト意識（時間・物の管理）を向上させる。

### (3) 教育公務員としてのサービスの厳正

- ① 法令の遵守、信用失墜行為の厳禁。
- ② 人権感覚を高める。
- ③ 社会人・集団の一員としての常識と良識をもつ。
- ④ 言語環境を整える。
- ⑤ 来校者・電話への対応は、「明るく・爽やかに・丁寧に」を徹底する。
- ⑥ 社会人としてふさわしい服装・態度を心がける。（生徒の手本）

教職員自己評価	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 人権尊重の理念を理解し、生徒の成長に深い愛情を注ぐ教職員	47.4 %	52.6 %	0.0 %	0.0 %
2. 教育公務員としての熱意、使命感、高い専門性をもつ教職員	26.3 %	73.7 %	0.0 %	0.0 %
3. 真摯に研究・修養に励み、教育の充実・授業改善に活かす教職員	36.8 %	52.6 %	10.5 %	0.0 %
4. 組織の一員としての自覚と協働意識をもち職務遂行する教職員	36.8 %	63.2 %	0.0 %	0.0 %

#### 【自己評価】

目指す教師像への自己評価全体傾向としては、概ね良好であった。「指導と評価の一体化」をテーマにした校内研究や小中一貫グループでの研究の取組は、自身の授業を振り返り改善を図る重要性や義務教育 9 年間における学びの連続性について常に意識する必要性について学ぶ機会となった。「真摯に研究・修養に励み、教育の充実・授業改善に活かす教職員」の項目に、「あまりあてはまらない」の回答があるため、次年度は授業改善が主体的に図られるような研究体制になるよう工夫したい。

#### 【学校関係者評価】

体育祭、合唱コンクール、道徳授業地区公開講座等での協議会で、教職員の方々の努力と熱意を強く感じ

た。これらの取組の成果は先生方ご自身のものであるので、他校に異動されてもぜひ活かしていただきたい。その上で、生徒の学力の向上、豊かな心の育成に向けて、さらなる研鑽をお願いしたい。ただ、あえて申し上げますと、自己評価の各項目すべて「あてはまる」が50%に満たないのは少し残念に思う。生徒と同様に教職員の方々にももっと自信をもって進んでいただきたいと願うものである。